令和２年　７月６日発行

躍動

北海道ムーブメント教育研究会
会報　第７６号

今年１月に開催した冬季講習会の様子をご報告いたします。１月１２日（日）、札幌市立栄町小学校にて『子どもが幸せになる音楽授業』というテーマで講習会を行いました。「髙倉先生の講座にぜひ参加したい！」と大阪から札幌までいらっしゃった方もおり、嬉しい限りでした。今回の講座のサブテーマ「幼稚園・小学校・中学校・特別支援がつながる」のとおり、様々な校種の先生方が集い、つながり、共に身体を動かしながら、笑顔あふれる会となりました。

ご参加頂いた皆様に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

子どもが幸せになる 音楽授業　～幼稚園・小学校・中学校・特別支援がつながる～

講師　髙倉　弘光先生　（筑波大学附属小学校 教諭）

《第一部》　① 新学習指導要領を分かりやす～く解説！　② ムーブメント基本エクササイズ

講習が始まるとすぐに椅子を取り払い、先生のピアノのリズムに合わせて歩いたり、手拍子をしたり…。いつの間にか参会者同士が打ち解け、クラスの子ども同士のような感覚で音楽に浸りました。その合間に新学習指導要領の大事な理論の話を交えながら講座を進める髙倉先生。「音楽の仕組みや要素を体感しながら学んでほしい」という先生の願いがよく伝わってきた講座内容でした。

《第二部》　鑑賞と身体表現 ～ 「シンコペーテッド クロック」の鑑賞から身体表現につなげる

アンダソン作曲『シンコペーテッド　クロック』は小学１年生の鑑賞曲です。「より意欲的に、そして、より楽しく子どもたちに曲を聴かせるには、どうしたらよいだろう？」という参会者の方々の悩みが、すっと解けるような講座でした。「もっと聴いてみたい！」、「身体を動かしてみたい！」と子どもたちに思わせる鑑賞の授業を、自分も「やってみたい！」と思った講座内容でした。

～アンケートから～

- とにかく楽しかったです。初めは少し緊張しましたが、皆さんと一緒に音楽に合わせて体を動かしていくうちに、打ち解けることができました。音楽を通して幸せになれるのが素敵だと思いました。
- 特別支援学級の担任として音楽はいつも悩んでしまう教科でした。本講座を受け、「こんなに楽しく音楽を学べるのか！」と刺激をたくさんもらいました。まずは、実践！行動に移してみます。
- 音楽というツールを使って自分らしく表現したり、人と触れ合ったり、やり取りをする楽しさを子どもに感じてもらえるよう今回紹介してもらったものを自分なりに工夫して３学期に取り入れたいと思います。

茗荷谷の風景　Vol.３１

インナー・ヒアリング

研究部　髙倉 弘光

社会生活すべての場面で、まだまだ新型コロナウィルス対策が求められている。みなさんがお住まいになっている地域では、どのような暮らしぶりだろうか。

学校の対応も地域によって、あるいは学校によってさまざまな様相を呈しているようだ。音楽の授業も同様である。今はかなり通常授業に戻ってきているようだが、「合唱はいけない」、「リコーダーや鍵盤ハーモニカもいけない」という全国的な流れもあった（ある？）のは、周知のとおりである。私の勤務校でも、７月いっぱいは歌唱と器楽はやらないことにしている。合唱ができない、楽器もダメ、となって、「音楽の本質的なことができない」、「困惑している」、「歌と楽器ができないんじゃ、音楽じゃない！」という嘆きの声もかなりあがったと聞く。

しかし、私は全くと言っていいほど、そういう気持ちにはなっていない。「できないならば、他の方法で音楽をやろう」と。確かに歌唱や器楽の、実際に音を出す部分での技能面は扱うことができず、そのことを残念には思っているのだが……。

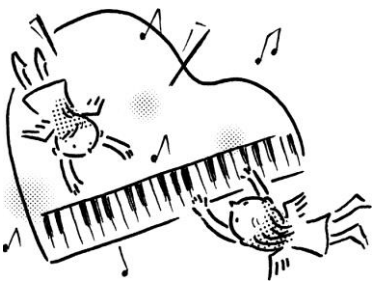
６月から、クラスの半分が学校に来る分散登校が続いている本校。音楽室は消毒の関係で使わないことを基本にしている。教室でどんな授業を進めているか、ちょっとご紹介する。

隣のクラスから「うるさい！」と言われぬよう、音量調節がきくキーボードを持ち込み、伴奏などをしている。3 年生の「ドレミの歌」。後半のドレミだけで綴られている歌詞がある。途中から二部に分かれて「ソードーラーファー…」と「ドミミ・ミソソ・レファファ・ラシシ…」が同時進行する。それを歌わずに、簡単なドレミ体操をする。下のドは膝に手を当て、ソは肩の高さに腕を前に伸ばす、上のドは天に向かって腕を伸ばす。想像できるだろうか。これを、子どもたちを半分に分け、向かい合わせて身振りだけの演奏をしたり、ディスタンスを保ちながら教室内を歩きながらやったり…。子どもらの笑顔…。それはそれは楽しい時間になる。

2 年生の「やまびこごっこ」は、いわゆる＜まねっこ＞の仕組みでできている。これを手拍子のリズムだけで演奏する。しかも、手をたたく場所で音の高さも表現する。そうすれば、実際に歌っているかのような錯覚を覚えるのである。教師と子どもでまねっこしたり、子ども同士でまねっこしたり、やり方のバリエーションはいくつもある。

上に挙げた例は、いずれも子どもの「インナー・ヒアリング（内的聴取）」の力を伸ばす。インナー・ヒアリングとは、リトミックを考案したダルクローズ博士が使った言葉だ。例えば、先の例で「やまびこごっこ」の手拍子遊びを紹介したが、手拍子をしたときに子どもの頭の中でちゃんと旋律が聞こえる、その能力のことを言う。現在では「サイレント・シンギング」という言葉も使われているが、同様の意味だと思われる。無音でありながら、人間の個体内では音が鳴っているわけで、それってすごく音楽的なことだと私は思っている。

不謹慎ながら、コロナ対応下で行っている授業が、静かで、ちょっと新鮮で、とても音楽性の高いものになっていることに気づき、驚いているこの頃である。



（たかくら・ひろみつ　筑波大学附属小学校）

「やればできる！挑戦！」月寒東小学校合唱団 全国大会出場の報告

令和元年、全日本合唱コンクールに小学校部門が新設されました。初の北海道支部代表を決める、９月２８日の北海道合唱コンクール。これまでの練習の成果を生かし、札幌市教育文化会館に歌声を響かせることができました。緊張の審査発表。「北海道代表は、札幌市立月寒東小学校合唱団」とアナウンスされると、子どもたちは笑顔と涙があふれ、忘れられない一日となりました。月寒東小の学校目標「やればできる！挑戦！」を合言葉に、チャレンジを続けてきた合唱団の子どもたち。全国大会出場という夢を叶えることができました。

１１月３日、東京・新宿文化センターにて行われた全国大会。記念すべき第１回に、北海道代表として出場することができ光栄でした。本校合唱団にとって、初めての全国大会。「飛行機に乗るのが初めて」という児童もおり、東京遠征は、会場にたどり着くまでドタバタの連続だったのですが、無事に全国大会のステージで、自分たちらしい演奏ができました。

私はムーブメントの事務局員として、運営に関わらせていただいておりますが、これまで本会講習会にて２度、合唱団の子どもたちを参加させていただいた機会がありました。参加者の皆様と共に学ぶことができるのは、とても貴重な機会であり、子どもたちの成長につながりました。

１回目は、2017 年８月の眞鍋なな子先生（町田市立鶴川第二小学校）の講座です。曲のリズムに乗って動きながら歌ったり、腹筋を鍛えながら歌ったりと、身体を使って歌う眞鍋先生の指導で、子どもたちがどんどん笑顔になっていきました。講習の終わりには、歌声も軽やかに、より遠くまで響くようになっていました。最後に歌った、眞鍋先生振付の「にじ」は、Kitara でのコンサートなど、たくさんの場面で披露させていただいています。

２回目は、2019 年８月の平野次郎先生（筑波大学附属小学校）の講座です。平野先生作曲「はじまりの歌」からスタート。おしゃれなジャズの伴奏で、子どもたちが乗っていきます。紹介してくださった常時活動は、子どもたち一人一人の思いを大切にしており、活動ごとのねらいも明確になっていました。最後は参加した先生方とも一緒に、会場が一つになり、音楽の楽しさを実感しました。

本合唱団の普段の活動でも、練習の初めは、仲間と楽しむ活動を通して、音楽の力を高めることを大切にしています。眞鍋先生と平野先生の常時活動は、授業や合唱団活動で、たくさん真似させていただいています。

また、合唱団でのムーブメントの実現として、歌唱や体力づくりの活動で、身体を動かすことを大切にしています。また、合唱曲でも、身体表現を取り入れています。曲によって、掛け声、振付やダンスなどを入れますが、本合唱団ではコンクール本番でも、動きを入れることが多いです。他校から驚かれることもありましたが、それが月寒東小の子どもたちらしい表現になっています。

これまでの講習会等で、合唱を聴いてくださり、ありがとうございました。現在（６月）は感染症の広がりにより、活動自粛の日々ですが、また皆さんに歌声を届けることができる日が来るのを楽しみにしております。

（本会事務局員・研究部 ／ 札幌市立月寒東小学校合唱団 顧問　上埜 光規）

やってみませんか　コーナーNO.２１　　コロナ対策でも楽しい音楽の授業

「リサイクルでミュージック」

昨今のコロナ対策下で皆さんはどのように授業を進めていらっしゃいますか？「歌や鍵盤ハーモニカ，リコーダーはウイルスが拡散する恐れがある。打楽器でもみんなで使いまわすと感染の恐れがある。だから，音楽の授業は見送っている。」という学校があるかもしれません。しかし，音楽は歌や鍵盤ハーモニカ，リコーダー，音楽室の楽器を使うだけではありません。外出自粛の中で増えてきたペットボトル，空き缶などのリサイクルゴミを楽器に生まれ変わらせて，楽しい音楽の授業をしてみませんか？

１．用意するもの

・ペットボトル，空き缶などのリサイクルごみ。（空き瓶は割れると危険なので今回はやめました）

２．ねらい

① 身近なものを使って出る音を楽しむ。
② みんなの演奏を聴いた感想を拾いながら，漠然としていた「音」を，音楽の要素「音色」「音の高低」「速さ」「リズム」などに注目させることで，「音楽」として整理していく。
③ クラス全員で１曲の楽曲をつくることで一体感と喜びをもたせる。

３．活動内容

① 自分の持ってきたものはどんな音が出るのか，いろいろ試してみる。
② 「音楽づくり」
・指揮者の合図で各自の音をつなげ，クラスで一つの楽曲をつくる。初めは一発ずつ鳴らしていく。長く演奏したくなる児童がいるので，２回目以降は「一人，４秒以内」などと各自の演奏時間をある程度決める。拍子にはこだわらない。指揮者は初め教師，慣れてきたら児童にもさせる。
・指揮者はで初めと終わり等の合図をする。（慣れてきたら強弱や速さの指示をさせても面白い。）最後の児童の演奏が終わったら，全員で一発鳴らす。
③ 「鑑賞」
・みんなの演奏を聴く。音楽の要素にも着目して聴く。
・録画や録音をして，自分たちの演奏を味わう。
④ 学年や実態に応じてアレンジ可能。

４．子どもたちの反応（一部紹介します）

① 音の出し方：たたく。こする。つぶす。押す。振る（水やビーズなどを入れても面白い）。ペットボトルのラベルをくしゃくしゃにして音を出す。空気を入れたレジ袋を振って音を出す。など
ある児童は，高さの違うペットボトルと水筒などを並べ，音の高低や音色の違いを楽しんでいました。次時では，違う大きさのペットボトルの数を増やして演奏を楽しんでいました。
回を重ねるごとに児童の演奏がレベルアップしていくのでこちらも楽しくなります。
② 児童の話では，指揮者として前に出るとみんなの演奏が見えるのでより楽しめるそうです。

（本会事務局員・研究部　　函館市立湯川小学校　中村真紀）

北海道ムーブメント教育研究会 夏季講習会中止のお知らせ

２０２０年夏の講習会は、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、中止することになりました。次回以降の講習会で、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

北海道ムーブメント教育研究会　令和２年度・事務局体制

会　長　大坂 克之

事務局　総務
細貝　睦（札幌市立栄町小学校）

研究
上埜 光規（札幌市立月寒東小学校）
髙倉 弘光（筑波大学附属小学校）
畠山 美砂（札幌市立西小学校）
田尾 明子（札幌市立新琴似南小学校）
石田 晃大（札幌市立共栄小学校）
国府 由香利（美深高等養護学校あいべつ校）
西　祐子

会計
竹内 倫子（札幌ゆたか幼稚園）
三上　恵（岩見沢市立南小学校）
高澤　伊織（札幌市立札苗緑小学校）

広報
稲船　志津子（上ノ国町立滝沢小学校）
齋藤 裕奈　（江差町立南ヶ丘小学校）
織田 暁知　（札幌市立みどり小学校）
佐藤　さゆり（石狩市立花川小学校）
竹浪　恵　（札幌市立新琴似緑小学校）
中村 真紀（函館市立湯川小学校）

会計監査
大場 隆幸（札幌市立藻岩南小学校　校長）
西　宏（札幌市立茨戸小学校　教頭）

常任顧問
堀田 吉宏（札幌市立伏見中学校）
亀山 比佐（北翔大学）